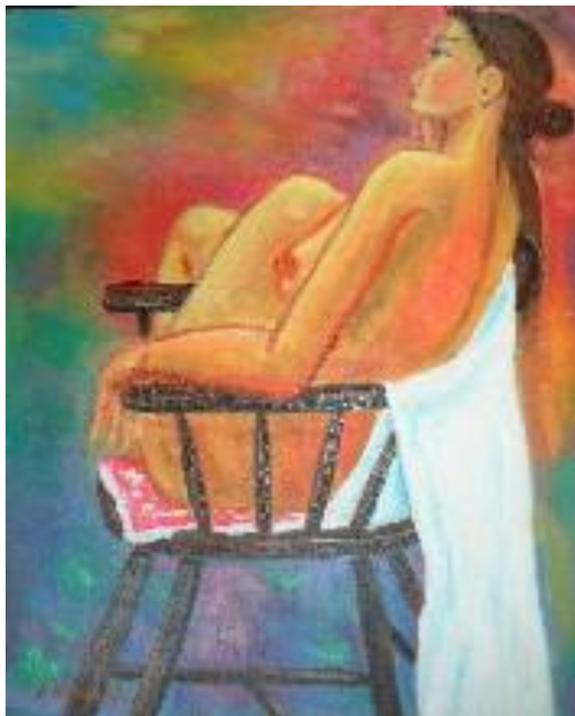
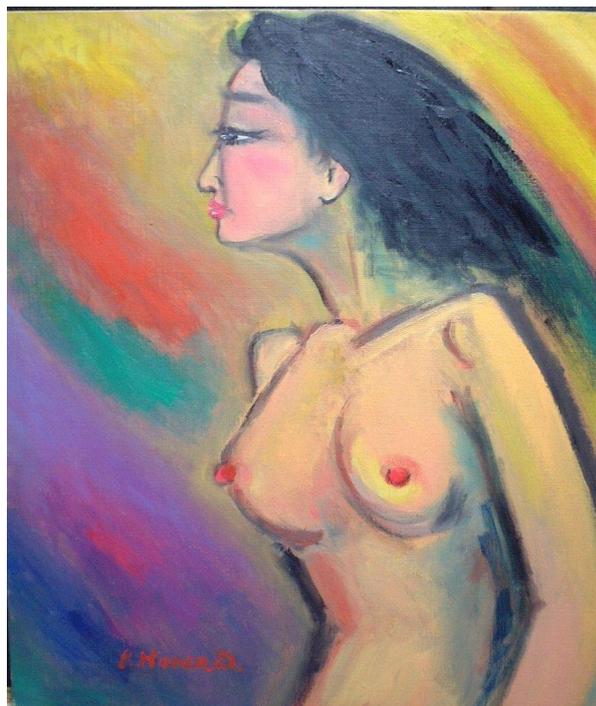


自画自説 2000 年頃「裸婦」



椅子の上の裸婦



裸婦(春名義照氏収蔵)

並木画塾で勉強していた頃人体クロッキー教室で初めて裸婦をデッサンした。狭い教室にいっぱいの塾生で、若い私たちは一番前に座らされた。初めての裸婦デッサンとモデルさんが寒いので暖房がされており、目の前の裸婦に汗だくでデッサンに取り組んだ。口の悪い友達に「何をそんなに真剣に描いているんだ。俺は半分裸体を見て楽しんでいる。」と平然としていた。

その後も、人体クロッキーは大切な勉強で、いろんな教室で勉強した。奥さんが湘南台駅前に画廊喫茶を開いたときも、毎月人体クロッキー教室を開いた。絵仲間に声を掛けて参加していただいた。しかし、モデル代と、モデル紹介所への経費、モデルさんの交通費で採算は取れなかった。でも、自分たちの勉強だと思って続けた。

兄が千葉の別荘の建設で、お風呂を作りに来てくれた。完成して帰るときにお礼に油絵を持って行ってもらうことにした。その中の1枚に裸婦を指定された。兄の子供達もまだ小さいので大丈夫かと心配したが、兄は自分の寝室のベッドのそばに掲示し、カーテンで隠した。子供たちが来ると見えないようにしたとのこと。2025年の故郷での個展「ふるさと展」にも展示した。